

県北NEWS

グローカル版

経営形態見直しなど施政方針に

「ここを一区切り」

登米市 大内^{病院事業}管理^者退任のコメント

【登米支局】登米市 化、登米市民病院の基
病院事業管理者の大内 幹型臨床研修病院の認
憲明氏は7日、退任の 定取得が2月の施政方
コメントを発表した。 針に盛り込まれたこと
退任の理由については 「ここを一区切りと
健康上の問題ではな 考えた」ため。一方で
く、大内氏が打ち出し 「改革はこれから始ま
た病院経営形態の見直 るので、引き続き登米
しと再編ネットワーク 市の医療に貢献した

い」と意気込みを述べた。

大内氏によると、2

017年4月の管理者
就任後、登米市病院事
業の課題を解決するに
は抜本的な取り組みが
必要と判断したとい
う。現状の公営企業法
全部適用では予算、人
事などに管理者の決定
権がなく、国の医療改
革への迅速な対応が難
しいため「地方独立行
政法人への移行が必
要」と指摘。基幹型臨
床研修病院の指定を受
ければ、地域自らが若
い医師を受け入れて育
てられるため「慢性的
な医師不足の解消に道
が開ける」とした。

化による経営効率化が
盛り込まれている。大
内氏は「公立病院が地
域の皆さまを守るべく
政策医療を行えるよ
う、地方独立行政法人
への移行が最適と考え
る」と訴えている。

し、原案を受け入れた。
ある市議は「本来は一
般会計から出すべきだ
が、一般会計の財政調
整基金も潤沢ではな
い。やむを得ないと思
う」と話した。

「引き続き市の医療に貢献」

大内氏は3月末で登
米市病院事業管理者を
退任するが、4月以降
も特別顧問として病院
改革に引き続き取り組
むほか、週2、3回程度
で診療にも当たる方針。

病院事業会計で付帯決議

登米市議会 19年度各種予算案可決

【登米支局】登米市

議会2月定期議会は最
賛成多数で可決した。

終日の7日、2019

一方で水道事業会計が

業会計では、早期健全

ら10年間の期限で3億
円を借り入れる病院事

化を求める付帯決議が
付いた。

付帯決議では、拠出

元の水道事業会計につ
いて「現在は健全経営
だが、今後は値上げも
検討しなければならな
い状況」と指摘。返済

については「病院経営
の健全化が急務であ
り、一般会計の支援が
不可欠」と指摘した。

一部の会派は当初、
予算案の否決や修正案
の提出も検討していた
が、病院事業の早期再
建には切れ目のない資
金拠出が不可欠と判断

登米市病院事業会計
は17年度決算で、経営
状態の悪化度合いを示
す「資金不足比率」が
12・7％に達し、起債
に県の許可が必要にな
った。18年度には総額
20億7452万円が一
般会計から繰り入れら
れており、19年度も水
道事業からの貸付金3
億円に加え、一般会計
からの繰入金19億43
04万円が計上されて
いる。一般会計の財政
調整基金残高は41億7
383万円(19年度当
初予算時)で、熊谷盛

広市長は40億円台を維
持する方針を示してい
る。

は一度市に
らい、再申
ためて交
え。対象者